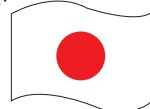


山梨県神社庁報

かみかね

祭日には国旗を掲げましょう



11月3日 文化の日
11月23日 勤労感謝の日
1月1日 元日
1月13日 成人の日

令和元年秋号 (第187号)



やぶさめ祭り 小室浅間神社

奉祝天皇陛下御即位
令和元年度山梨県神社関係者大会次第

第一部 天皇陛下御即位奉祝祭

時刻 斎主祭員並参列者着席

次に 修祓

次に 降神

次に 神饌を供す

次に 斎主祝詞を奏す

次に 斎主玉串を奉りて拝礼

次に 斎長玉串を奉りて拝礼

次に 総代会長玉串を奉りて拝礼

次に 来賓代表玉串を奉りて拝礼

次に 神饌を撤す

次に 昇神

次に 各退出

次に 天皇陛下御即位奉祝山梨県民大会
会長挨拶

第二部 神社関係者大会

次に 第

一、 開式の辞

一、 神宮遙拝

一、 国歌斉唱

一、 敬神生活の綱領唱和

一、 物故者の霊に黙祷

一、 庁長式辞

一、 総代会長挨拶

一、 庁務報告

一、 功績表彰

一、 神社庁規程表彰

一、 神社総代会規程表彰

一、 神社本庁規程表彰者伝達

一、 全国神社総代会表彰者伝達

一、 神宮大麻優良表彰者伝達

一、 長寿の祝い記念品贈呈

一、 来賓祝辞

一、 被表彰者謝辞

一、 萬歳奉唱

一、 閉式の辞



式

辞

庁長 根 津 泰 昇

錦織りなす今日の佳日に神

職、総代を始め県下の氏子崇敬者にご参集賜り、令和元年「奉祝天皇陛下御即位」奉祝祭・山梨県神社関係者大会を開催致しましたところ神社本庁統理鷹司尚武様、神宮大宮司小松揮世久様、神道政治連盟会長打田文博様、山梨県知事長崎幸太郎様を始め天皇陛下御即位奉祝山梨県民大会会長、甲府商工会議所名誉会頭金丸康信様又奉祝県民大会式典実行委員長、山梨県議会議長大柴邦彦様多くの御来賓の皆様にご参列賜り厚く御礼申し上げます。

皇室におかせられましたは、四月三十日に上皇陛下が御譲位なされ、五月一日に皇太子殿下が践祚遊ばされ、第百二十六代の天皇陛下の御位におつきになられ、令和の御代に引き継がれ「剣爾等承継の儀」「即位後朝見の儀」に臨まれました。天皇陛下は「国民と寄り添いながら象徴の責務を果たしていく」とのお言葉を述べられました。国民への深い思いを寄せられてお

れるお気持ちと感じられました。

「即位礼正殿の儀」「大嘗祭」と重儀も無事斎行され、今週末の神宮への「ご親謁」を残すのみでございます。すべての重儀が無事納められる事を願わずにはいられません。

十一月九日には天皇陛下の御即位をお祝いする国民祭典が皇居周辺にて執り行われました。県内からも神職総代を始め、地方議員懇談会の県議、天皇陛下御即位奉祝県民大会の役員等多くの方々と共に心より奉祝の誠を捧げるために参列して参りました。国民祭典に参列し、令和の御代も皇室の弥栄を心より願っております。

山梨県に於いては明年三月八日(日)に天皇陛下御即位奉祝山梨県民大会を開催いたします。式典は県庁噴水広場で、奉祝記念事業は平和通りで大人神輿と富士山の形をした子供神輿を先導に二千名の提灯行列を実施する予定であります。令和の御代を担う青少年、お孫さんをお誘いいただき、神社関係者が

一丸となつて奉祝気運を高めたく存じますのでご協力の程お願い申し上げます。

神宮の御事につきましては、神宮大麻頒布を始め、参宮、新穀感謝祭参列の促進に力を注いで参ります。

神宮大麻につきまして令和二年五月一日より頒布初穂料が改定となりますので頒布の際、手違いが生じないよう努めてまいりたく存じます。

山梨県神社庁におきましては、庁務、諸施策、運営は順調に推移しておる報告を受けております。後程参事より報告致します。

不活動対策委員会においては、県下総代様より対策費を御協賛賜りました事に対し厚く御礼申し上げます。対策費のお陰で少しづつでは有りますが解消に向けて歩んでおります。本年度も数社が解消に向けての手続きが進んでおります事ご報告いたします。

過疎地域神社活性化推進委員会での取り組みは、甲府の金桜神社を中心とする地域で傳承されてきた県無形文化財でもある「三番叟」の保存に重点を置き進めて参りました。結果復活の兆しが見えてきました。これも地域住民、総代神社関係者が復

興に向け共に歩んでこられた事が実つたのだと存じます。他にも復活させたい神事が幾つかありますので順次調査を進めて参りたいと考えております。

大麻頒布向上委員会の取り組みについては、昨年と同様に新聞紙上、新聞折り込みチラシを使い、啓発運動を推進し、減体阻止運動を展開致したく存じます。現社会現象は、少子高齢化が進み、高齢者から、神棚のお世話が出来なくなりつつあるので、不敬にならないうちに神棚を外したいと望まれ、その神事の依頼が近年見受けられます。

又新築する若い世代は神棚を設置しない家庭が多く見受けられます。この様な家庭は神宮大麻、氏神様崇敬神社の御札への関心が薄くなりつつあります。御札への認識を伝えられるのは神職、総代、神社関係者でございます。神社関係者が手を取り合い歩む事が信仰の基盤と存じますのでご理解御協力賜りますようお願い致します。

終わりに本日の表彰に浴されました方々は常日頃の神明奉仕のお姿が認められた証でございます。今後共お体には充分ご自愛頂き斯界興隆の為に尽くし下さいます事をご期待申し上げます。お祝いの言葉と致します。



総代会会長挨拶

山梨県神社総代会

会長 中 田 欽 哉

令和元年初めての山梨県神社関係者大会を開催いたしましたところ、県下神社関係者のご出席を賜り、また神社本庁総代理鷹司尚武様御名代総長田中恆清様、神道政治連盟会長打田文博様御名代副会長石川正人様を始め、多数のご来賓のご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。

五月一日の御即位当日から天皇陛下は天皇として初となるご公務に臨まれました。また、五月二十七日から二十八日にかけて、初となる国賓のご接待にも臨まれました。令和初の国賓は、アメリカのトランプ大統領夫妻でありました。両陛下は宮殿「竹の間」にご案内し、会見に臨まれ、流暢な英語で和やかにご歓談され、六月一日から二日、第七十回全国植樹祭が愛知県で開催され、両陛下が出席、地方ご公務は国民と触れ合われる貴重な機会であります。即位礼正殿の儀が、十月二十

二日に皇居宮殿「松の間」で午後一時より執り行われました。テレビでも放映されましたのでご覧になられた方も有ろうかと思えます。

山梨県におきましても、奉祝行事が三月八日に山梨県庁噴水前広場で計画されております。式典終了後、奉祝パレードも行われますので、多くの人々の参加をお願いします。

九月に千葉県房総半島を襲った台風十五号は、大雨と風速四十五米の強風により十六日現在で十一万戸が停電、断水等大被害を受けられました。東京電力は、九月二十七日までに全面復旧を目指していましたが、作業の遅れが判明し、いつ復旧するかめどが立たず、生活への影響が長期化、国・県は、災害復旧に全力で当たらなくてはなりません。一日も早く正常な生活に戻るように祈らずにはいられません。このような大きな台風が

何回となく本土を襲うのは温暖化の影響でしょうか。

山梨は、台風の影響もあまり受けず、農作物の被害もほとんどなく、もも・ブドウ・すもも等生産量が減少する事なく品質も良く、市場価格も安定、生産者は安堵したと思います。しかし、ものの生産地日本一の峡東地域にせん孔病の猛威がある事を新聞で知り、びっくりしました。ものの生産地を守るために、県・市町村が消毒薬剤の費用を補助する事で早い対応に安堵しました。

昔の人は、農業が減れば、国が亡びると言われてきました。苦労した割には収入が少ないが、それでも田畑を荒らさず耕作してきました。農業者に敬意を表します。農業を守るには若者たちの力が必要です。若者よ、すべてが都会ではない。田舎に戻って農業をやろうではないか。考える農業は楽しいと思えます。若者が帰ることによって集落は活性化します。

集落の活動が減退するのを黙って見ていては、何も進歩しません。そこに住んでいる人たちは、どうしたらよいかを皆で考

えることが必要です。

私は、各支部総会に出席しています。小集落の人達は、神社を守る事も大変ですが、皆、一生懸命頑張っています。不活動神社もたくさんありますが、もう一度原点に返って、議論が必要です。氏子が少なくなり、総代のなり手がないと言っているまほっとけば神社は守れません。地域にはご婦人がいます。その人たちを交えて議論が必要です。婦人の力は強いです。

支部総会で、「祝・祭日に国旗掲揚しますか」と聞いてみると、五から十名位しか手を挙げません。残念です。来年は、オリンピック、パラリンピックの年です。世界中から多くの人達が来日します。日の丸の旗を持って迎えてやりたい。マスコミも国旗掲揚の推進力を後押しして下さい。

総代会において多くの課題を抱えています。神職と総代が一体となって立ち向かい、努力をしなくてはなりません。

氏子から信頼される役員でなくってはなりません。お互いに頑張らしましょう。

庁 務 報 告

事 業

- 1、神宮大麻奉斎推進
- 2、神宮参宮運動促進
- 3、神殿三大祭斎行
- 4、神宮新穀感謝祭奉賛
- 5、靖国神社公式参拝実現運動実施
- 6、北方領土返還運動継続
- 7、各種研修
- イ、現任神職研修会
- ロ、総代研修会
- ハ、雅楽研修会
- ニ、関東地区中堅神職研修会
- ホ、女子神職研修会
- ヘ、浦安の舞研修会
- ト、初任神職研修会
- 8、一都七県神社庁連合会議
- 9、国旗掲揚運動推進
- 10、不活動神社対策事業
- 11、過疎化地域神社対策事業
- 12、金品寄付者顕彰
- 13、神政連活動に協力
- 14、神社奉護運動推進
- 15、日本会議活動に協力

16、美しい日本の憲法をつくる

山梨県民の会活動に協力

17、天皇陛下御即位三十年奉祝事業

18、天皇陛下御即位奉祝事業

19、郷土暦編纂配布

20、庁報「かひがね」年四回発行

神社本庁統理の承認を申請した神社

申請件数 十九件

承認件数 十三件

内訳

財産処分 九件

建物新改築等 一件

境内地模様替 二件

規則変更 ○件

神社合併 一件

神社本庁規程表彰

中尾神社宮司 田村 弘正

神明社宮司 竹俣 忠洲

吉本富士宮神社代官 神樂 利行

山梨県神社庁参事 飯田 直樹

神社庁規程表彰

武田神社権禰宜 遠藤 倫生

諏訪神社宮司 坂本 任那

八幡神社責任役員 熊王 育雄

小松神社責任役員 坂本 宗正

神宮大麻頒布優良者表彰

優秀支部 東八代支部

特別表彰頒布優良奉仕者

若宮神社宮司 志村 重治

頒布優良奉仕者(神職)

武田神社権禰宜 関 宣隆

諏訪大神社宮司 日原 瑞枝

中尾神社禰宜 田村 かつる

八幡神社宮司 内藤 正隆

福地八幡神社宮司 渡邊 博

頒布優良奉仕者(総代)

伊勢社責任役員 長田 玉夫

頒布優良奉仕団体

稲積神社 稲積神社崇敬青年会

全国神社総代会規程表彰

浅間神社責任役員 三井 晴則

小松神社責任役員 坂本 宗正

山梨県神社総代会規程表彰

金櫻神社責任役員 坂下 武

金櫻神社責任役員 相原 勝仁

稲積神社敬神婦人会 北澤 梅子

稲積神社世話人 梶原 政治

甲府恵比寿神社世話人 宮澤 國雄

甲府恵比寿神社世話人 佐藤 四郎

千塚八幡神社氏子 笠井 信子

千塚八幡神社奉賛会 土橋 好江

千塚八幡神社氏子 小林 八重子

千塚八幡神社奉賛会 小野 佳子

千塚八幡神社奉賛会 安達 光枝

鈴宮諏訪神社総代会長 奥田 伸也

神明神社総代会長 中川 隆

三島神社総代会長 池川 春男

佳喜神社総会十五員会 渡辺 貞長

佳喜神社総会十五員会 望月 浩

佳喜神社総会十五員会 長田 健作

佳喜神社総会十五員会 田中 恵

佳喜神社総会十五員会 宮川 邦男

宇波刀神社総代会長 櫻林 公男

富前八幡神社責任役員 村松 正美

富前八幡神社責任役員 大久保 一雄

富前八幡神社責任役員 石山 正和

玉諸神社総代 石原 正信

玉諸神社総代 中込 幹治

玉諸神社責任役員総代 落合 哲哉

玉諸神社総代 磯部 正一路

八雲神社崇敬者 名取 喜美枝

八雲神社崇敬者 清水 孝貞

八雲神社総代 名取 誠

大島天神社神楽保存会 藤本 菊男

【新任神職】

熊野神社宮司 岩間 秀人

吉本富士宮神社権禰宜 溝田 哲司

吉本富士宮神社権禰宜 大嶋 実和

【昇任神職】

松尾神社宮司 長田 正純

浅間神社権禰宜 駒谷 秀夫

【本務替神職】

金櫻神社宮司 志村 幹人

大宮五所大神宮司 横森 寿夫

【帰幽神職】

石船神社宮司 沓間 好保

報国神社宮司 斎藤 泰史

大神社権禰宜 兼松 昇



庁務日誌抄

祭儀関係

[illegible]

三・一一	浦安の舞研修会(神社庁)	令和元年	六・一一	宮	七・一〇	予算委員会(神社庁、身分選考委員会(神社庁)、役員会(神社庁)	九・二	大宰府天宮感謝の集い(福岡) 庁襲員会(神社庁)
三・一一	一都七県神道政治連盟本部長・幹事長・事務局長会議(十葉)	五・七	六・一一	神道政治連盟国会議員懇談会合同懇談会(ホテルニューオータニ)	七・一一	日本会議山梨県本部役員会(神社庁)	九・四	教化委員会広報部会(神社庁)
三・一二	神政連選挙対策協議会(神社庁)	五・一〇	六・一二	神政連中委員会(神社庁)	七・一二	中堅神職研修会(明治神宮)	九・四	令和元年九月四日、五日全国神社総代会(石川)
三・一三	日本会議関東ブロック会議(東京、神社本庁理事会(神社本庁、庁長懇話会(明治記念館)	五・一一	七・一二	女子神職会総会(神社庁)	七・一二	女子神職会総会(神社庁)	九・六	本庁役員会(神社本庁)
三・一四	神社庁長会(神社本庁、御代替特別対策本部神社庁連絡会(神社本庁、浦安の舞研修会(神社庁)	五・一九	七・二四	令和元年六月十日、十四日 事務担当者研修会(神社本庁)	七・二四	敬神婦人連合会総会(神社本庁)	九・一一	令和元年九月十日、十三日 敬神婦人全国大会(広島)
三・一五	式研修会(神社本庁)	五・二〇	六・一三	教化委員会(小室浅間神社)	七・二五	山梨県神社総代会監査(神社庁、北都留神社総代会(大月市民会館)	九・一三	神宮大膳部市販布向上計画委員会(神社庁、過疎地域神社活性化推進委員会(神社本庁)
三・一八	役員会(神社本庁)	五・二二	六・一四	敬神婦人連合会役員会(神社本庁)	七・三〇	神政連山梨県本部監査(神社庁、教化委員会(神社本庁)	九・一七	崇敬会地方本部事務局長会(神宮会館、庁長懇話会(神宮司庁、皇學館懇談会(志摩観光ホテル)
三・一九	過疎化地域神社活性化推進委員会(神社本庁)	五・二二	六・一八	雅楽会舞装束お披露目奉告祭	七・三一	山梨県神社庁監査(神社本庁)	九・一七	崇敬会地方本部事務局長会(神宮会館、庁長懇話会(神宮司庁、皇學館懇談会(志摩観光ホテル)
三・二二	平成三十一年三月二十二日、二十一日 一都七県神社庁事務担当者研修会(茨城)	五・二三	六・一九	女子神職会祭式衣紋研修会(神社本庁)	八・二	開基大会(神社本庁)	九・一八	庁長会(神宮司庁、日本文化興隆財団評議員会(神宮司庁)
三・二七	靖國神社参拝と浅草散策の旅(二七五名)	五・二三	六・二二	神社庁システム検討部会(神社本庁)	八・六	正副庁長会(神社本庁、役員会(神社本庁、協議員会(神社本庁、評議員会(神社本庁)	九・二〇	上吉川諏訪神社・鷲影神社不活動神社賛助会(諏訪神社)
三・二八	庁報委員会(神社本庁)	五・二四	六・二二	一都七県神道青年協議会総会(鐘山苑)	八・七	峡北支部総会(魚光翁館)	九・二四	表彰員会(神社本庁、役員会(神社本庁、顧問・茨城県飯塚庁長特級祝賀会
四・二	教化員会(神社本庁)	五・二五	六・二五	霧島神宮慶光院宮司特級昇進祝賀会(鹿尾島)	八・九	政連山梨県本部地方銀懇談会(ベルクラシック甲府)	九・二五	表彰員会(神社本庁、役員会(神社本庁、顧問・茨城県飯塚庁長特級祝賀会
四・九	庁報委員会(神社本庁)	五・二五	六・二六	学習センター)	八・二〇	国旗掲揚推進委員会(神社本庁)	九・二六	令和元年九月二十六日、二十七日 祭式講師研究会(神社本庁)
四・一〇	天皇陛下御即位三十年奉祝感謝の集い(国立劇場)	五・二七	六・二七	箱根神社事業遂行祝賀会(箱根神社)	八・二二	日本会議山梨県女性の会役員会議(神社本庁、日本会議山梨県女性の会総会(神社本庁、日本会議山梨県本部総会(神社本庁)	九・二七	教化委員会(神社本庁)
四・一六	神道青年全国協議会七十周年記念式典(明治記念館)	五・二九	六・二八	北北神社総代会総会(魚光翁館)	八・二二	日本会議山梨県女性の会役員会議(神社本庁、日本会議山梨県女性の会総会(神社本庁、日本会議山梨県本部総会(神社本庁)	九・二九	令和元年九月二十九日、三十日 雅楽研修会(神社本庁)
四・一八	本庁理事会(神社本庁、天皇皇后両陛下神宮御親謁(神宮)	五・三一	七・三	甲府支部令和元年度総会(ベルクラシック甲府)	八・二三	東山梨支部定期総会(山梨市民会館)	九・二七	令和元年九月二十九日、三十日 雅楽研修会(神社本庁)
四・二三	役員会(神社本庁、新旧役員交歓会(古名屋ホテル)	六・四	七・四	臨時評議員(都七県の会)	八・二三	東山梨支部定期総会(山梨市民会館)	九・二七	令和元年九月二十九日、三十日 雅楽研修会(神社本庁)
四・二六	一都七県評議員の会(明治記念館)	六・六	七・五	庁報委員会(神社本庁)	八・二七	令和元年八月二十八日、二十七日 教誨師研修会(東京)	九・二七	令和元年九月二十九日、三十日 雅楽研修会(神社本庁)

山梨県神社庁経常費歳入歳出決算				自 平成30年 7 月 1 日	至 令和元年 6 月30日
山梨県神社庁経常費歳入歳出予算				自 令和元年 7 月 1 日	至 令和 2 年 6 月30日
歳 入 の 部					
款 項	科 目	平成 30 年度決算額	令和元年度予算額		
神社本庁幣帛料		382,000	380,000	通 信 運 搬 費	630,705
負担金		22,668,800	22,778,800	賄 費	14,810
本庁協賛金		620,000	580,000	旅 費	1,711,725
神社負担金		11,359,800	11,359,800	交 際 費	853,984
神職負担金		8,364,000	8,509,000	慶 弔 費	122,984
特別神社寄贈金		1,925,000	1,930,000	雑 費	37,132
神宮奉賛活動推進費		400,000	400,000	車両維持管理費	648,131
交付金		48,213,630	47,700,000	事業 費	6,999,293
神宮神徳宣揚費		47,300,000	46,900,000	教化関係費	184,103
神社本庁交付金		913,630	800,000	教化委員会費	1,798,934
財産収入		1,283	12,000	地方研修所費	631,572
神殿奉納金		0	10,000	講習会助成費	21,860
財産利子		1,099	1,000	庁報発行費	1,073,520
預金利子		184	1,000	郷土暦調整費	1,046,168
諸収入		4,917,271	4,681,618	神宮奉賛活動推進費	400,000
郷土暦頒布費		2,068,500	2,000,000	指定団体補助金	1,220,000
手数料並授与料		907,000	1,000,000	神社本庁協賛金	465,000
雑収入		781,771	581,618	表彰 費	58,136
特別納付金		1,160,000	1,100,000	神社調査費	10,000
当初運営金		6,000,000	6,000,000	諸祭寄贈金	90,000
繰越金		8,063,829	7,347,582	神社本庁負担金	4,564,350
歳入合計		90,246,813	88,900,000	大麻暦頒布費	951,940
				頒布始祭費	80,000
				郷土暦頒布交付金	620,550
				荷造発送費	30,390
				雑 費	221,000
				派遣 費	1,189,605
				評議員派遣費	309,020
				一都七県連合会派遣費	720,515
				神宮奉仕員派遣費	0
				事務担当者派遣費	160,070
				会館運営費	848,885
				神殿 費	159,437
				借地 費	200,000
				営繕 費	147,000
				管理 費	254,448
				諸 費	88,000
				資金財産造成費	3,020,000
				基本財産造成費	10,000
				予備資金積立金	10,000
				職員退職金積立金	1,500,000
				会館維持資金積立金	500,000
				神宮式年遷宮積立金	1,000,000
				分担金	680,000
				運営資金積立金	800,000
				次年度当初運営金	6,000,000
				予備 費	0
				歳出合計	82,899,231
					88,900,000

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算 山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算				自 平成30年 7 月 1 日 至 令和元年 6 月30日 令和元年 7 月 1 日 至 令和 2 年 6 月30日		
歳 入 の 部			消 耗 品 費	2,855	10,000	
款 項	科 目	平成 30 年度決算額	令和元年度予算額	旅 費	80,000	300,000
諸 収 入	担 金	3,057,488	3,035,490	手 当	120,000	120,000
	金	1,553,850	1,553,850	慶 弔 費	50,000	80,000
	金	1,443,000	1,443,000	役 員 会 費	29,197	100,000
	金	0	5,000	雑 費	13,240	50,000
	入	60,638	33,640	全国神社総代会代議員派遣費	143,720	180,000
	繰 越 金	2,447,809	2,334,510	負 担 金	173,900	173,900
	入 合 計	5,505,297	5,370,000	事 業 費	2,450,758	4,100,000
歳 出 の 部			神 社 振 興 対 策 費	503,513	1,100,000	
款 項	科 目	平成 30 年度決算額	令和元年度予算額	講 演 会 費	0	100,000
諸 支 出		446,129	890,000	功 績 者 表 彰 費	58,137	100,000
	備 品 費	0	5,000	研 修 費	604,095	900,000
	文 房 具 費	4,083	10,000	全 国 総 代 会 積 立 金	300,000	300,000
	図 書 印 刷 費	0	5,000	総 会 費	985,013	1,600,000
	通 信 運 搬 費	3,034	30,000	予 備 資 金 積 立 金	100,000	100,000
				予 備 費	0	106,100
				歳 出 合 計	3,170,787	5,370,000

神 政 連 山 梨 県 本 部 歳 入 歳 出 決 算				歳 出 の 部			
自 平成30年 7 月 1 日 至 令和元年 6 月30日				款 項 科 目		平成 30 年度決算額	令和元年度予算額
神 政 連 山 梨 県 本 部 歳 入 歳 出 予 算							
自 令和元年 7 月 1 日 至 令和 2 年 6 月30日							
歳 入 の 部							
款 項	科 目	平成 30 年度決算額	令和元年度予算額				
会 費		1,853,000	1,880,000	経 常 費		240,484	250,000
特 別 協 賛 金		361,000	365,000	人 件 費		150,000	150,000
法 人 寄 付		1,188,040	1,200,000	備 品 消 耗 費		20,000	20,000
個 人 寄 付		2,622,500	2,480,000	事 務 所 費		70,484	80,000
雑 収 入		21,003	4,094	政 治 活 動 費		5,935,766	5,505,000
当初運営資金繰入金		0	100,015	組 織 活 動 費		2,255,093	2,085,000
前 年 度 繰 越 金		201,598	70,891	調 査 研 究 費		168,060	200,000
歳 入 合 計		6,247,141	6,100,000	寄 付 金 交 付 金		1,961,700	1,980,000
				研 修 費		1,365,520	1,050,000
				一 都 七 県 会 議 費		106,993	120,000
				そ の 他 の 経 費		78,400	70,000
				運 営 基 金 積 立 金		0	150,000
				一 都 七 県 積 立 金		0	100,000
				運 営 資 金 積 立 金		0	50,000
				当 初 運 営 資 金 繰 出 金		0	100,015
				予 備 費		0	94,985
				歳 出 合 計		6,176,250	6,100,000

金品寄付者に対して感謝状贈呈

神社庁長

◆東山梨支部

諏訪神社 平成三十年度氏子

総代、天野正喜、櫛淵武男、

山本榮泉、志村和人、深沢健

三、村松仁司、佐藤貴、海瀬

正二

金櫻神社 名取顯、名取マリ

子

◆東八代支部

白山神社 角田善雄、帯刀久

栄

金刀比羅神社 株式会社中村

工務店、株式会社沼田鉄筋代

表沼田文次

大宮神社 丸山喜久男

八幡神社 石橋朗和会会長

竜沢武利

◆峡南支部

表門神社 丹澤淳人、渡邊茂

信

◆峡中支部

八幡神社 海野利彦

穂見神社 穂坂牛一、中辻伸、

(有)崎石材工業

浅間神社 河村幹彦

◆峡北支部

鷺宮社 栗原信雄

宇波刀神社 小沢正洋、中嶋

宏興

三嶋神社 篠原繁明、馬場利

雄、馬場袈裟一

諏訪神社 津金洋一、津金宏

嵐、津金富久

福地八幡神社 保阪幸彦、立

正俊成会・葦崎教会

◆南都留支部

富士御室浅間神社 小佐野勝

白山神社 外川栄治、外川春

一、外川力三、外川文夫、中

村要一、外川仁

浅間神社 第一の一の三組第一

二組、有限会社魚義、株式会

社山梨墓石センター

白山神社 外川文雄

八王子神社・筒口神社 風林

火山、馬羊会

◆本社本庁統理

◆甲府支部

住吉神社 秋山岩雄

◆峡北支部

宇波刀神社 真壁静夫

神社本庁 十月定例評議会

本庁評議員 古 屋 真 弘

去る十月二十四日、神社本庁に於いて、定例評議員会が開催され、本県から根津庁長、中田総代会長、古屋本庁評議員の三名が出席した。

開会儀礼の後、鷹司統理から、台風の被災者にお見舞いの言葉があり、「天皇陛下下の即位に際し国民ひとしく奉祝の誠を捧げると共に諸行事が恙無く行われる様祈念する」旨の挨拶がなされ、続いて来賓の神道政治連盟打田会長から挨拶がなされた。

次に中山議長が登壇し、五月の評議員会以降に帰幽された山元評議員に黙祷が捧げられた。

議事に入り、「平成三十年五月定例評議員会における評議員提出決議案件等の処理結果」「平成三十年度神社本庁業務報告」「平成三十年度の決算関係」が上程され承認された。一般会

計歳入歳出決算は、歳入が五十億三千万余円、歳出が四十七億五千万余円となり、歳入の主たる部分が神宮からの本宗交付金三十二億円、歳出の主なもの神徳宣揚費の三十四億円である。よって二億八千万余円が令和元年度に繰越となった。

また、「御代替関係特別会計

歳入歳出決算」の、歳出では悠紀田主基田に選ばれた栃木、京都の両県への活動助成金や、御代替りに関する啓発冊子の作成費用等に使われているとの説明がなされた。

次に「令和元年度一般会計歳入歳出補正予算」が上程、原案通り可決された。

自由討論では、山梨県からの意見として、私から「過疎地域の神社への取り組みについて」と題し、山梨県の不活動神社対策について説明をし、不活動神社対策委員会を平成二十五年に組織し、平成二十七年からは中込前総代会長の提案で不活動神社対策は県全体で取組むべきとの決議により、不活動対策協賛金を募集、最終的に神職、総代から四百万円以上の協賛を得、本庁、県神社庁の助成金を加え七百万円の対策資金が集まり、それにより、司法書士や行政書士に依頼し、スピード感を持って解決に当たる様努力している事、それにより二十三社に対策を行い、十二社の不活動状態が解消したとの事例を発表した。

次に、田中総長、鷹司統理が閉会の挨拶をされ、終了した。

閉会后、多くの評議員から山梨県の不活動対策に対し評価を

するとの声が寄せられたことは、大変嬉しい次第であった。

神宮大麻暦頒布始祭

表彰式・秋季推進会議

東八代支部 支部長 植 松 真 芳

去る九月十七日、令和元年度の神宮大麻暦頒布始祭・神宮大麻暦頒布表彰式・秋季推進会議がそれぞれ神宮内宮神楽殿、神宮会館にて執り行われました。

連休明け、残暑厳しい気候ではありましたが変わらず伊勢の地は参拝者が多く境内は賑わっていました。前日には恒例の招宴が開かれ、小松大宮司様始めご挨拶を賜り、乾杯後はご参集の皆様と親しく懇親を深め、盛大な宴となりました。十七日当日は先ずは外宮、内宮に参拝し、神楽殿に於いて頒布始祭を斎行、各県神社庁長に神宮大麻を頒ち、引き続き神社本庁奉納の御神楽の奉奏、神宮会館に移動し直会・昼食を摂り、その後大講堂にて令和元年度神宮大麻暦頒布表彰式・秋季推進会議を開催いたしました。表彰式では特別表彰頒布優良奉仕者の名前が読み上げられ、山梨県では東八代支部の若宮神社宮司志村重治様が表彰されました。その

後行われた推進会議では恒例により前年度の頒布結果が報告されますが、例年約三万から四万体制体の報告がされており、厳しい現状が数字で見える会議でもあります。全国の地域の現況としては地方では人口減少、都市部では神棚祭祀への無関心が言われる中、変わらずご朱印の来社参拝は減らず、神社に全くの無関心とは思えない。来年五月よりの神宮大麻初穂料の増額も決まっている中、第六十三回神宮式年遷宮を視野に入れ、如何にしたら増体の結果を出せるかを一から目直したいと思えます。かつて先輩神職より「神宮大麻頒布は神職・総代に課せられた永遠のテーマであり、終わりのないもの」と聞いた事があります。

神明奉仕する者として家庭祭祀について改めて考え、神宮大麻増頒布に努めて参りたいと思います。

第五十五回全国神社総代会大会に出席して

浅間神社 責任役員 三 井 晴 則

令和元年九月四日早朝に三十九名にて県下を出発して、一路石川県を目指し、十一時三十分頃に到着して、石川県立音楽堂にて、「奉祝天皇陛下御即位」第五十五回全国神社総代会が、開催されました。大会に先立ってパイプオルガンの演奏があり、館内いっばいに響きわたり、感動しました。続いて記念講演で、俳優の篠井英介先生の「演題」に入り、地元出身の「金沢に息づく伝統」についての話しがあり、金沢の伝統工芸の金箔工芸については、特筆すべきものであり、後世に伝統工芸を守ってゆきたい、との意義ある講演を聞かせて頂きました。続いて式典に入り、全国神社総代会長、三村会長の式辞のあと、神社功労者表彰となり、山梨県から二名、小松神社役員、坂本宗正様と、浅間神社役員の三井晴則の二名が表彰されました。引き続き来賓の祝辞となり、神社本庁統理、鷹司尚武様より「奉賛活動の柱として、神宮大麻、暦の頒布活動を推進して下さい」との祝辞を頂き、次に神宮大宮司、小松揮世久様よ

り祝辞があり、新たな御代で初めてとなる令和元年度の神宮大麻・暦の頒布にあたり、本宗奉賛と神宮大麻全国頒布の意義を再確認し、全ての世帯に頒布するとの気概を以て、頒布向上に精励戴くことを切に願う次第である。と祝辞を頂き、神道政治連盟会長の打田文博様より、国旗、国歌及び祝日は、その国の伝統と文化を尊重するもので、推進に継続して取組んでもらいたい。次に石川県知事の谷本正憲様より歓迎の挨拶があり、金沢市長の山野之義様より金沢ようこそおいで頂き、「伝統工芸の金箔工芸と街並を鑑賞して下さい。」との歓迎の挨拶がありました。次に受彰者の謝辞があつて、令和元年度の事業計画報告があり、全員の了承を以て承認されて、大会宣言のあと、次期大会開催地の広島県の代表から歓迎の挨拶があり、大会は終了いたしました。夜はホテル和倉温泉に一泊して、翌日には予定の尾山神社へ正式参拝して、東茶屋街を散策して、一路山梨へ無事に帰ってきました。

神道政治連盟山梨県本部
地方議員懇談会報告

本部長 渡 邊 平 一 郎

令和元年八月九日、ベルクラシック甲府に於いて、神道政治連盟山梨県地方議員懇談会総会が開催された。

開会儀礼から始まり、皆川巖会長が挨拶を行った。一月の山梨県知事選挙と四月の統一地方選挙、七月の参議院選挙の結果の報告と御礼、又新天皇陛下御即位の奉祝事業への協力と抱負を語った。続いて来賓の赤池誠章参議院議員が挨拶に立って選挙結果と御礼の言葉があつた。

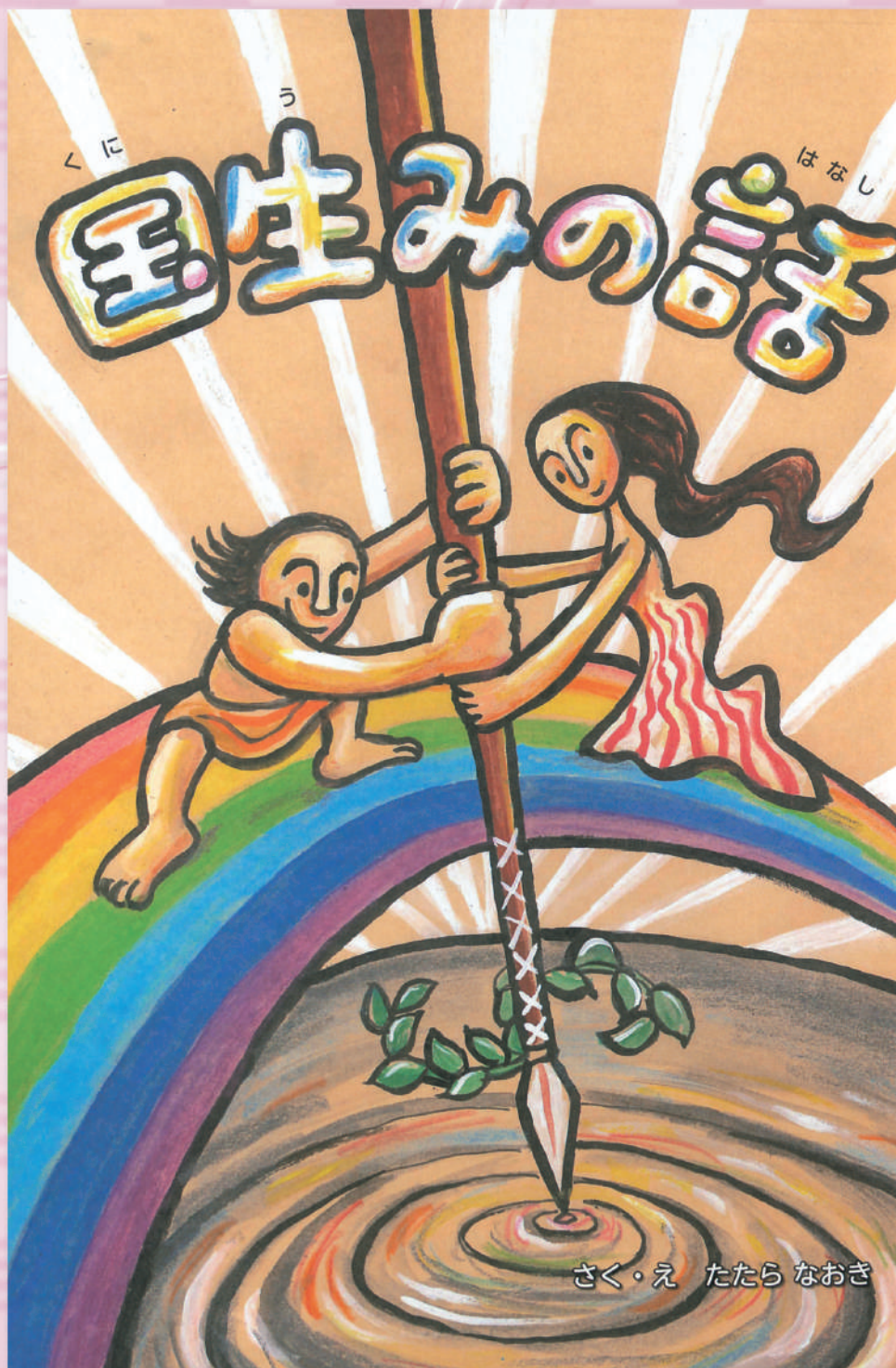
来賓挨拶、紹介が終わって議事に入った。議事は、平成三十九年度活動報告と決算報告が一括で上程された。活動報告では、一月の県知事選挙で自民党県連が一本化され、これまでの経緯を乗り越えて選挙に臨んだこと、又この流れに乗って七月の参議院選挙に勝利したことも含めて報告され、監査報告の後に承認された。続いて、令和元年度の活動方針、事業計画、予算案が上程され、令和二年の三月八日に、天皇陛下御即位奉祝事業として大柴邦彦県議会議長を実行委員長に、奉祝式典、奉祝パレードに協力する旨の説明と、予算案を討議した。予算案では、

神政連山梨県地方議員懇談会の会員が十八名から二十六名に増加したことの報告と説明があり、その後決議された。議事が終わり総会を閉会して神政連山梨県本部との懇親会に移った。忙しい中十八名の県議会議員の出席を頂き、各選挙区ごとに用意された席に着いて、それぞれに親睦を深めた。

振り返ると地方議員懇談会設立にあたり当時は自民党県議団が二つに分かれていた。神政連として非常に難しい立場にあり、行動には慎重を期して会議を重ねた。当時の佐々木本部長を中心に、神政連山梨県本部は誰にも何処にも阿ることなく私利私欲に捕らわれず真つ直ぐに進むとの方針を決め理解頂ける県議員の先生方と一歩を踏み出した。最初は否決された「憲法改正早期実現の国会要請」の決議も成された今では四月の地方選挙に於いて当選した自民党所属の二十六名の県議員全員の入会も頂いた。神社庁役員を始め神職、総代の協力誠にありがとうございます。今後共宜しくお願い申し上げます。

絵本 日本の神話

国生みの話 (第四話)



「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五―十
電話 〇三―五七七五―一四四五
一冊 二〇〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。

さく・え たたら なおぎ

すると こんどは かみなりたちが
どどつと おいかけてくるのです。
「ばちで たたくぞ
どん どん
かみなり おとすぞ
ごろん ごろん」
「ああ、おいつかれちゃう。
もう なんにも
なげるものが ないよー。」
ふと 目の前に
ももの木が。
「ああ、そうだ、
ももには ふしぎな力が
あるんだ。
ももの実さん、
たすけて
ください。」

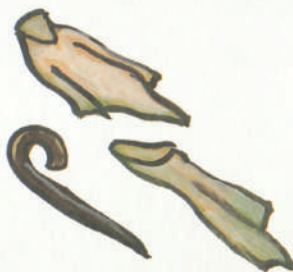


「やめてくれよ
どん どん
ももは きらいだ
ごろん ごろん」
かみなりたちは
ひっくりかえって
にげていきました。
えいっと
なげると、
ばしっ
ばしっ



顔を あらうと
つぎつぎと
神の子どもが
生まれました。

帰^{かえ}るとちゅう、
からだを きれいに
あらっていると、
心も きれいに
なりました。



山梨県神社庁神宮大麻暦頒布始祭

峡南支部 支部長 山 本 純 司

九月十七日、伊勢の神宮において神宮大麻暦頒布始祭が斎行され各県神社庁長に大麻が頒布されました。このことを受けて令和元年度山梨県神社庁神宮大麻暦頒布始祭は、九月二十五日神社庁神殿において峡南支部により斎行されました。

長年にわたり神宮大麻増体運動を全国的に進めている中、山梨県では、昨年頒布総数一三三、一七六体（前年比一、〇三二体減）、内訳として大麻一、七三六体（一八体減）、中大麻一二、四三八体（九一体増）、小大麻九九、〇〇二体（一、一〇五体減）という状況でありました。過疎地域では世帯の減少または消滅が顕著になりつつあり、若い世代は生活のしやすい都市部へ流入し、それに伴う神棚祭祀の断絶、地域共同体への関わりの低下など要因となる課題は中々解消されません。

世は御朱印ブームであり、神社参拝の若者やインバウンドでの外国人の姿が多く見受けられ、そのことが直接増体に結び

つくかどうかは不確定ではありますが、外祭での講話、氏子総代の皆様方との連携強化など根気強く継続していくことが肝要であり、理解普及を図ると共に私達自身も自己啓発、自己研鑽に励むことも求められるのではないでしょうか。

大麻は「大神の大御稜威（おおみいつ）を仰ぎ奉り斎い奉る大御璽（おおみしろし）」であり、神棚にそれを奉ることと心の安寧や日々への感謝など意義ある家庭の中での心の習慣を育むところとなり、そのことが氏神様との繋がりとともなうと思います。意識を高く持ちながら氏子総代の皆様方とともに神明奉仕に務めていきたいと考えます。



神社庁顧問参与会

武田神社 権欄宜

遠 藤 倫 生



去る、九月二十五日午後三時よりホテル談露館において、令和元年度山梨県神社庁顧問・参与会が四十余名の参加者の下、開催されました。

第一部例会では、開式の辞に続き、本年新たに参与に加わる私に根津神社庁長より委嘱状の交付がございました。その後、根津庁長、総代会長のご挨拶、飯田参事より神社庁の業務報告



が行われ、例会を閉式しました。続く第二部では、山梨県神社庁顧問、山梨県護国神社宮司羽中田進先生を講師に迎え『交通安全と私』と題し、講演を戴きました。その後、会場を改め第三部懇親会が執り行われ、先輩顧問参与の皆様と懇親を深めさせて頂き、激励のお言葉や、今後の神社界についての提言を賜りました。

今般、新たに山梨県神社庁参与を拜命致し、素より浅学非才の身、若輩者ではございますが、中堅神職として改めて心も身も更に引き締めて誠心誠意努めて参る所存でございます。引き続き先輩方からの御指導、御鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

第三十五回神道講演全国研修大会(九州大会)に参加して

講話研究会(末廣会)

稲 葉 政 信

去る七月十六日から十八日の二泊三日の日程で、佐賀県鎮座佐嘉神社において、研修会が開催された。私は、武田神社内藤彌宜を会長とする十名前後の講話研究会(末廣会)に所属しており、当会では毎月講話当番を決めて社頭講話をしてもらい、他のメンバーが評価をして、お互いの講話上達を目指し訓練をしている。そんな中で私は、「神葬祭(一年祭と納骨)を終えて」を題目として、原稿用紙五枚(講話時間十分)なる内容

で、末廣会で二回程揉んでもらい、講話内容と講話術を修正してもらって、九州大会参加となりました。

この研修会は、十五年前神社庁に奉職していた時に、当時の上司の古屋主事にご指導を仰ぎ出雲大会に参加したのが初めてで、その時の題目が「我が家の子供教育」でした。十五年前は子育て真つ只中、今は宮司となり様々な御祈禱と事業継承を考える歳になり、十五年の歳月は講話の題目をも大きく変えるなと改めて感じました。

研修会の進め方は、予め準備してきた題目に従い、三人単位で各自十分講話を行い、講師先生が評価を行った後、各受講生は発表者の評価を講演実習感想用紙に記入するスタイルです。評価項目は、祈り・内容・話法・態度・総合評価・課題に分けられています。ですので、私も受講生三十三人から感想用紙を頂きましたので、私の評価が客観的に分かる訳です。最後に、研修会の講師先生に元NHKアナウンサーの宮田修先生がおり、先生が一般向けの講話のポイントを話されましたので、お伝えして結びとします。

- ①はつきりと話す(ア段は大きく口を開ける)
- ②自信を持つ(話す事により相手が幸せになると思え)
- ③いろんな事を調べ裏を取り、咀嚼解釈しオリジナルを作る(インターネットは嘘が多い)
- ④講演録を作る(書き言葉と話し言葉は違う)。

第三十七回神社本庁神道教学研究大会に参加して

天神社 宮司

松 田 公 仁

本大会は東京渋谷の神社本庁で毎年行われており、今年は九月二日に「大嘗祭と天皇の祭祀」の題で、「古代の大嘗祭について」國學院大學名誉教授岡田莊司先生より、「明治の大嘗祭について」國學院大學教授武田秀章先生より講演がありました。

古代の大嘗祭と明治の大嘗祭とを比較検討しており、中絶時期も含め変わりつつも、歴史を通じて変わることのない本質や、大嘗祭を中心とした天皇祭祀と神社祭祀との関係や現代の大嘗祭についての考察が行われ、古代律令国家の成立により、即位儀礼の「大嘗祭」等が定め

- し言葉は違う)。耳で聞いて分かるか? 難しい言葉はNG
- ⑤目の前の人を小五の子供と思え(小五でも分かる話にする)
- ⑥地名と人名(字解きをする)
- ※有名は固有名詞、無名は補足を入れる(疑問を湧かせるな)
- ⑦相手の事を考える(愛情)

られたとされる天武・持統朝より千三百年以上の歴史があり、成立時は即位の礼と大嘗祭は同時期に行われていたが、今から千年前桓武天皇の時代に分けられたこと、明治より旧暦十一月第二卯の日になったこと、本庁憲章の「敬神尊皇の教学」の観点から大嘗祭に合わせ全国各地の神社でも新嘗祭が行われたことなど、皇室祭祀と神社祭祀との関係を改めて考えることができました。最後は本庁内で懇親会があり、先生方・神職の方々と交友を深めました。

この国と国民の安寧・豊穡を祈った儀式が行われた大嘗宮は、十一月二十一日・十二月八日まで一般公開され、皇居・坂下門から入門できますので、皆さん足を運ばれてはいかがでしょうか。



甲府刑務所

秋季慰靈祭齋行

山梨県神職保護司会

宮下重範

去る九月十三日に甲府刑務所において秋季慰霊祭が斎行されました。

同朋務所における慰霊祭は被収容者とその家族の物故された方々の御霊を慰霊するため、毎年春秋の彼岸の時期に行われ、県内八宗派の宗教団体が持ち回りで受け持っているものです。

今回は二年ぶりに神道形式での当番となり、山梨県神職保護司会が、会長以下八名により祭典を奉仕させて頂きました。

当日は、刑務所内にある講堂の舞台上に祭場を設けての斎行となりました。

神事に先立ち、典儀を務めた石原鎮事務局長から神道形式で遂行することや、奏楽に用いる楽器(笙、箏、篳篥等)について説明を行い、和楽器独特の優美な音色を響かせ、列席した者の心を癒し、穏やかな雰囲気の中で開式を迎えました。

神事にあたっては、教誨師を務められている根津泰昇会長が

斎主を務められ、神籬に物故者
三百三十三柱の御霊をお迎えす
ると共に物故者名簿を供え、刑
務官や該当する百名を超える被
収容者の参列のもと厳肅のうち
に慰霊祭が斎行され、処遇部長
が代表して玉串を奉り物故者に
対し哀悼の誠を捧げられました。

最後に教誨師でもある、佐々木高仁副会長が講話を行い、神道では祭祀の齋行にあたつては、先ず、心身の清浄を期することが求められている。列席されている人達も罪を犯してしまつたことにより刑務所に収容されていたため、親族等関係者の葬儀に参列できなかつたことは誠に心残りであろう。一人一人が改めて清らかな真心を胸に、このような状況を引き起こした自らの罪への反省と、故人への慰霊の念を深く心に留めて刑期を全うし、社会に出た後も同様に清らかな心根を持ち続け、再び法を犯すことの無いよう生活することが肝要である旨話されました。

参加した被収容者一人一人が、
本日の慰霊祭を通じ、心の清浄
と平穏を得て、更生の道を歩ん
で行くことを願うものです。

祭典日程

10・20	甲府市酒折酒折宮例大祭 山梨 山下栗原大宮五所大神秋季大祭 山梨市正徳寺唐土神社秋例大祭 甲斐市富竹新田神明神社例祭 甲斐市長塚長塚神社秋季例大祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮 秋季例大祭 南アルプス市吉田諏訪神社秋例 祭
11・10	甲府市愛宕町愛宕神社例祭 甲府市高畑住吉神社秋季例大祭 忍野村忍草浅間神社七五三祭 忍野村内野浅間神社七五三祭 富士吉田市下吉田小室浅間神社 室宮恵比寿例祭(二十日)
11・19	生出神社新嘗祭 甲府市宮前町 八幡神社新嘗祭 甲府市国玉町 玉諸神社新嘗祭・神宮大麻頒布 始祭 甲府市湯田甲府恵比寿神 社例大祭えびす講祭 塩山上萩 原神部神社新穀感謝祭 勝沼町 菱山古宮太神社秋季例大祭 早 川町京ヶ島八幡町吉神社秋祭り 身延町帯金八幡大神社新穀祭 富士吉田市新倉富士浅間神社新 嘗祭 忍野村忍草浅間神社新嘗 祭 忍野村内野浅間神社新嘗祭 富士吉田市松山松尾神社新嘗祭 小淵沢町小淵沢北野天神社新嘗 祭
11・28	韮崎市穴山町諏訪神社新嘗祭 大泉町谷戸逸見神社新嘗祭 甲府市御岳町金桜神社鎮火祭
12・1	
10・26	
10・25	
11・15	
11・10	
11・19	
11・23	
12・31	神社新嘗祭・大祓 甲府市宮前町八幡神社大祓 甲 府市国玉町玉諸神社大祓 甲府 市東光寺山八幡神社大祓 一宮 町橋立甲斐奈神社大祓式 甲斐 市西八幡八幡大神社師走大祓式 長坂町長坂上条徳見諏訪十五所 神社降夜祭 大泉町谷戸逸見神 社年越祭・大祓 忍野村忍草浅 間神社年越大祓式並びに除夜祭 忍野村内野浅間神社年越大祓式 並びに除夜祭 大嶽山那賀都神社元旦祭 大月 市七保町葛野御嶽神社歳旦祭 一宮町橋立甲斐奈神社歳旦祭 南アルプス市百々諏訪神社歳旦 祭 韮崎市藤井町南下条福地八 幡神社歳旦祭 高根町長沢船形 神社歳旦祭 小淵沢町北野天神 社元旦祭 白州町白須若宮八幡 神社元旦祭 忍野村忍草浅間神 社歳旦祭 忍野村内野浅間神社 歳旦祭 富士河口湖町船津八王 子神社歳旦祭 富士河口湖町船 津箇口神社歳旦祭 大月市初狩 町下初狩八幡神社元旦祭 高根 町箕輪建部神社歳旦祭 長坂町 大井ヶ森森山諏訪神社元旦祭 甲府市愛宕神社火伏祭 大月市駒橋三嶋神社元始祭 一宮町中尾神社道祖神祭 富士吉田市新屋山神社正月祭
1・17	
1・12	
1・3	
1・2	

緑陰子供会

教化委員会事業部

渡 邊 英 明

七月中旬、県内は遅い梅明け。

その後、盆地は連日茹だる様な猛暑日。そんな中の八月四日、吉田の小室浅間神社で緑陰子供会が開催されました。早朝、境内に集合した委員達は口を揃えて「涼しいねー。」ほどなく渡辺宮司様が来られ「暑い暑い：皆様暑い中を御苦勞様です。本日は流鏑祭の準備も実施されます。」と挨拶もそこそこに総代さん達と打合わせ。お忙しい様子。

九時半受付開始。十四名の子供達が集まりました。始めは境内でゲーム。子供達と委員ともすぐ打ち解けました。次に昇殿参拝。神妙な顔つき、慣れない手つきで代表者に合わせて参拝。宮司様のお話の後、記念撮影。再び境内でレクレーションゲーム。参拝の緊張が解れたのか前にも増して歓声が響きました。作業の手を休めて、総代さん達も走り回る子供達を眺めて

いました。雅楽を鑑賞し昼食。美味と定評の宮司様の奥様のカレーでした。二杯、三杯のお代りは当たり前、男の子の中には四杯目の声も聞こえました。不詳私も三杯頂きました。食前食後の挨拶も竹笠委員の先導できちんとして出来ました。行灯作りの後、おやつのアイスを食べながら火鑽体験と順調に進み午後三時半、閉会式。迎えの親御さんに行灯を見せたり、カレーを何杯食べたか興奮気味に話す後ろ姿。氏神様に親しみを持って、初詣に、お祭りに、節目々々、この参道を通して参拝に来てくれることを願いつつ見送りました。



渡 邊 いのり

(小学二年生)

わたしは、りよくいん子ども会にさんかしました。

じん社のけいだいで、はんかちおとしやおにごっこや、小さなボールをはぶきようそうをして、とてもたのしかったです。じん社のはいでんで「ががく」をききました。日本でむかしからえんそうされていた音がくたと知っておどろきました。

お昼ごはんのカレーライスをたべおわって、絵とろうろうをつくりました。絵に色をぬりました。くみたてるのがむずかしかったので、てつだってもらいました。むかしは電気がないので、よるにあかるくするのにつかうものだとわかりました。

そのあと火おこしをしました。ひもがついたぼうで木のいたをこすって火をおこすのは、たいへんでした。けむりは出たけど火をつけることはできませんでした。今は、かんたんに火をつけることができ、べんりだなと思いました。

りよくいん子ども会にさんかして、じん社のことでむかしのことをたくさん知ることができました。とてもたのしかったです。

渡 邊 平 護

(中学二年生)

今年の夏休み、小室浅間神社で行われた緑陰子供会に参加しました。

地域の子供達が集まり、神様にお参りした後境内で鬼ごっこなどをして遊びました。境内の木々が日光を遮っているのも、とても涼しかったです。昔の子供が神社を遊び場に使っていた理由が分かった気がします。

神社の拝殿で雅楽を鑑賞しました。音取や越天楽は聴いたことがありましたが、実際に演奏しているのをじっくりと見たのは初めてでした。雅楽で使われる楽器の中では、龍笛の音が一番好きです。雅楽を間近で鑑賞できる機会はないのでとても貴重な体験でした。

午後は絵灯籠を作ったり、火おこし体験をしました。昔から火は生活になくてはならない物ですが、火をおこすことがこんなにも大変だとは思いませんでした。

今回の緑陰子供会では、神社という神様が居る神聖な場所を身近に感じる事ができました。これからも地域を見守っている神様に常に感謝して生活をしていきたいと思いました。

第十九回神社関係者 囲碁大会報告

山梨県教育関係神職協議会
事務局長 小佐野 文 男

昨年、一昨年と台風の進路に当たり、前日から開催を懸念する電話しきりであった。山梨県神社関係者囲碁大会は第十九回の今年は盆地らしい暑さの朝を迎えた大会であった。

この大会に向けて、山教神の役員は様々な準備を進めてきた。六月二十三日山梨県立青少年センター内リバース和戸にて開催の総会において、八月二日午前九時より神社庁二階大会議室にて大会を実施することに決定した。先ずは、県内各神社に開催要項とメンバー表の配布。山日



YBSに後援依頼と賞状・トロフィー等の賞品申請を行い、又県内別表六社に協賛金をお願い文を郵送し、七月三十日に囲碁大会会場準備の為、日本棋院山梨支部からの碁盤、碁石・碁笥の借用と会場の机、椅子の準備等様々な仕事を終え大会当日を迎えた。

令和元年八月二日(金)午前九時、囲碁大会は先ず郷田新会長先導の下、神社庁神殿に向かつての二拝二拍手一拝の拝礼から始まった。神社関係の囲碁愛好者も幼稚園・保育園児、小学生達も神殿前で神妙な面持ちで拝礼し式典に臨んだ。

大会式典において、先ず主催者である根津泰昇神社庁長から「この囲碁大会は高齢者と青少年が、此処県下の神様を祀る神殿に一堂に会し、親睦を深めるという意義深い大会です。元号も平成から令和に改まったばかり、令和の始めの運試しというようなりラックスした気分も持ちながら対戦に臨んで下さい。」との挨拶を頂いた。その後、郷田会長から、一般、青少年の参加者に励ましの言葉があり、とりわけ、新会長は、教育長の在職経験があることから、「夏休みの貴重な一日、仲間との交流を深めながらも、勝負にこだわる対局を望んでいる。」との挨拶があった。

また、高野英夫常任顧問から、囲碁大会の試合方法などの対局上の説明があった。

昨年Aクラス優勝・山梨市・諏訪神社、Bクラス優勝・笛吹市御坂町・美和神社から優勝カップの返還があり、記念のレプリカを受け取った。この後対局に入り、一般参加者……各神社から八チームがAクラス・Bクラスに分かれ、青少年の部は幼稚園・保育園児から小中学生までの二十六名は個人戦にて対戦は進んでいった。

戦い終えて、閉会式の講評では青沼審判長は、「今日は、この大会を主催している神社庁にお礼を申し上げたい。」と切り出し、「国内、県内では上段者の大会はあるが、初級者、中級者対象の大会は無く、この神社庁の囲碁大会が唯一だ。十五名の全国大会出場者のうち十名がこの大会の経験者で、特にこの大会で優勝して全国で五位になった少年がいる。この大会での受賞と、トロフィー授与がことのほか励みになっていた。」との結びの言葉があった。

第十九回を迎えた大会であったが、一般の部への常連出場神社のメンバーに高齢からか体調不調の方が増えて、出場チームが減少している事が憂慮される。第十九回、一般の部入賞チームと青少年の部入賞者を紹介する。



一般の部(Aクラス)

優勝 美和神社(笛吹市御坂)
準優勝 熊野神社(甲州市塩山)
第三位 古宮太神社(甲州市勝沼)

一般の部(Bクラス)

優勝 浅間神社B(笛吹市一宮)
準優勝 白山神社(富士河口湖町)
第三位 北斗会

青少年の部(有段者)

優勝 岡部 有(山梨寄属小)
準優勝 岡部 想(山梨寄属小)
第三位 橋本 和歩(竜王小)

青少年の部(上級者)

優勝 望月 志龍(南都どり幼稚園)
準優勝 粕山 一志(山梨大学付属小)
第三位 丸山 歩羽(富士見小)

青少年の部(初心者)

優勝 奥原 佑(相川小)
準優勝 池田光太郎(羽黒小)
第三位 丸山 陽羽(富士見小)

山梨県神道青年会活動報告

広報部長 岡 田 美佐子

去る令和元年九月九日から十日の二日間、鹿兒島県に於いて日向三山陵参拝勤勞奉仕が行われました。当会では、創立五十周年記念事業として始められた、多摩陵・武蔵野陵参拝勤勞奉仕を毎年行っており、来る令和二年に創立七十周年を迎えるにあたりまして、例年行われているこの行事を更に拡大し、周年記念事業の一つである皇室尊嚴護持啓発事業として、九州鹿兒島県神代三山陵にて参拝清掃奉仕を行う事となりました。

一日目は、台風十五号の影響により、高速バス運休、道路の通行止めや渋滞、飛行機の遅延等、予想外のアクシデントが重なり、このまま事業が実行できるのかと不安なる場面も多々ありました。しかし遅れること約十時間、神々の御加護を戴き、参加者九名が全員無事に九州に到着することが出来ました。当初の予定では、山幸彦の名で馴染み深い天津日高彦火火出見尊の御陵である高屋山上陵に参拝した後、天津日高彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊の御陵吾平山上陵にて参拝し、そこで清掃奉仕を行う事になっていました。しかし到着時間は午後八時、已む無く

中止し、宿泊先のホテルにて互いの労を語り合い、親睦を深めました。

二日目は晴天に恵まれ早朝より天津日高彦火瓊杵尊の御陵可愛山陵、新田神社へ向かい参拝を致しました。次に急遽予定を変更し、昨日中止となった高屋山上陵へ向かい参拝、次に最後の目的地となります霧島神宮にて正式参拝を行いました。

残念ながら今回は勤勞奉仕は行う事は出来ませんでした。様々な困難を乗り越えて、遠い九州の山陵を参拝するという滅多に出来ない貴重な経験が得られた参拝旅行であったかと思えます。

これより先、様々な記念事業が進んで参ります。会員一丸となりこの事業を完遂させるべく邁進して参る所存でございます。皆様方には今後とも倍旧のお力添えを賜りたくお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。

山梨県敬神婦人連合会活動報告

会長 古屋 真紀子

山梨県敬神婦人連合会では、去る九月十一日より十三日までの三日間、広島県で開催された第七十回全国敬神婦人大会に合わせ、総会参加旅行を実施しました。今回は遠方での事もあり、県内各地より十三名の参加でし

大会は十二日午後一時半から広島市内の文化交流会館で行われ、式典に先立ち清興として広島県内の女子神職、巫女十二名による「浦安の舞」を鑑賞しました。

式典では鷹司会長の式辞「女性の活躍が期待される昨今、七十年の歩みを振り返りつつ、御社頭、御家庭の婦人の力を結集し良き国柄の護持につとめたい。」に続き、来賓の祝辞の後、議事に入り、平成三十年度の会務報告決算報告に続き、令和元年度の活動方針や事業計画案等が承認されました。中でも当会でも進めている「国旗小旗の作製協力」の事業も重要な取組としてあげられました。

総会では、会長の古屋真紀子氏が新年度から関東ブロックからの総務委員として推挙されました。

続いてジャーナリストの櫻井よしこ氏により「この国の行方―日本にあるべき姿―」と題した記念講演が行われ、「日本が直面する多くの課題に、傍観する事なく、日本の婦人として強く心揺るぐ事なく一緒に進んで欲しい」との力強い講演に感銘を受けました。

参加旅行では、十一日広島県呉市の「大和ミュージアム」を訪問。女性のガイドの方から、戦艦大和が現代に残した先進的な科学技術の側面からの説明を

聞き、戦艦大和に対する軍事面以外での意義を女性目線で感じられたことは有意義な時間でした。

また、大会当日の十二日には厳島のホテルに宿泊。県連の懇親会を実施し懇親を深めた。翌日には厳島神社を正式参拝。職員の方の丁寧な説明と、スムーズな誘導で、拜殿で参拝の後、文化財の建物群を説明して頂き、記念撮影のご配慮も頂いて、たいへん感謝しております。残念ながら、海中の大鳥居が七十年ぶりの修復工事のため覆いが掛けられ、全貌は見ることが出来ませんでした。

三日間の行程を無事終え、少人数の旅でしたが、楽しく友好を深めた旅行になりました。来年の大会は北海道との事でして多くの単位会の方に参加して頂くと同時に、神社庁役員様の奥様方、女子神職会、神社女子職員の方など、個人会員として参加する方を、広範囲にお声がけしたいと模索しています。ご協力をお願いします。



山梨県神道雅楽会活動報告

浅間神社 権祿宣

中 村 陽 宏

九月二十九日より九月三十日の二日間、山梨県神社庁研修所主催第十一回神道雅楽会研修会が開催されました。講師として上明彦先生、池辺五郎先生、柴田直宏先生の三名をお招きし、ご指導頂きました。受講生は山梨県神道雅楽会の会員と、穴切雅楽会の会員を中心に二十名程が受講しました。受講者には神職ではない方もおりました。受講生は全員、非常に意欲的に研修に参加しておりました。

研修はまず、初日の九時より開会式を行い、その後管別に別かれ、休憩を挟みつつ午後七時まで稽古をしました。私は箏築をしていきますので、池辺先生にご指導頂きました。稽古はまず音の出し方などの基礎的な事から教えて頂きました。それぞれの音を具体的なイメージを上げて教えて下さいました。又、箏築の舌の事も伺いました。それから曲目は平調の越殿楽、五常急、皇慶急、陪臚、鶏徳、舞楽の蘭陵王の稽古をしました。二日目は午前九時から初日と同じ曲と、平調の調子を稽古を

しました。又、午後からは龍笛、鳳笙と集まり合奏をしました。合奏では稽古をした平調の曲目と蘭陵王に加えて長慶子を演奏しました。受講生全員二日間の成果を出し、とても良い合奏ができたと思います。その後午後三時から閉会式を行い、無事二日間の研修を終了しました。

二日間の研修はとても有意義なものであったと思います。講師先生方から頂いた貴重なお言葉を胸に今後も研鑽を重ねてゆきます。先生方には御多忙の中二日間ご指導頂き誠に有難うございました。

蘭陵王とは

蘭陵王は、雅楽の曲目の一つ。管絃にも舞楽にも奏される。管絃演奏時には蘭陵王、舞楽演奏時には陵王と表す。

一人舞で、華麗に装飾された仮面を被る勇壮な走り舞。

北斉の蘭陵王高長恭の逸話にちなんだ曲目で、眉目秀麗な名将蘭陵王が優しげな美貌を獐猛な仮面に隠して戦に挑み、大勝した勇姿を歌った曲が由来とされている。

山梨県氏子青年協議会活動報告

相談役 長 湯 英 規

去る令和元年七月六日～七日に、「氏青よ 成せばなる 郷土の思いを胸に抱き 集え山形の地へ」を主題に、全国より総勢七百名を超える会員が参加の中、天童ホテルにて開催されました。

当日は定期総会に先立ち、米沢市上杉神社にて正式参拝が行なわれました。そこでは「上杉鉄砲隊の火縄銃の発砲」が歓迎アトラクションとして披露されましたが、雷が落ちた時のような迫力で圧巻でした。

定期総会では任期満了にともなう役員改選があり、東京都の鈴木登代秀氏が新会長に選任されました。

定期大会では、田中会長より天皇陛下御即位を寿ぎ挨拶がなされ、任期二年間の事業の報告と、氏青が今後も次世代へとの懸け橋となり豊かな時代の礎となることを期待されました。また来賓祝辞では、田中恆清神社本庁総長・宮野直生山形県神社庁長・遠藤利明衆議院議員・金田祐季神道青年全国協議会会長

が祝辞を述べられました。また、氏子青年活動に貢献した個人団体の表彰が行われました。

記念講演では、佐藤孝弘山形市長より「かしこきものを感じながら生きる山形の郷土と祭り」と題し「古くから自然への畏敬の念があり、生活に根付いている」と話されました。

懇親会では、「たたら太鼓」「花傘踊り」が披露され懇親を深めました。

私は二十年以上毎年参加していますが、本当に素晴らしい仲間との懇親であると感じています。同じ思いを持った者同士、同じ道を進む者同士との再会は心に新たな息吹をもたらします。「地域の輪は氏青から」「伝統文化の継承は氏青の力で」を胸に、共に頑張つてまいります。



総代広場 第二回

〈甲府支部〉

総代会 会長 中 込 豊 秋

私はかねてより神社新報の記者、社長に全国それぞれの総代会、総代の動向、共通の活動状況、問題点等を載せる欄を設けたらどうかと何回か要請したが実現せず残念な思いでした。

この度山梨県神社庁が発行しておる「かひがね」に「総代広場」が設けられたこと、私はこの上ない喜びであります。

総代各位が日頃ご奉仕されておる催事、祭、更に苦心される神社建設、整備事業の成功例。なほ永年に亘り苦心され行詰りし問題を載せてお知恵を頂くことも必要ではないでしょうか。「総代広場」を活用されたら如何でしょうか。

情報化時代とは申せ県内に一、二六五社あるなか特色のある神社も数多くありますが総てを知ることは難しいが、「総代広場」を通して多くを知ることが可能です。但し投稿することが必要でしょう。

県神社会の最も大きな問題は

不活動神社対策であります。その対応は徐々に推めてはおりませんが、その成功例、推めておるが行詰っておる問題点もあり、我神社も考えなければと思われ総代もおられるでしょう。

県神社庁側も「総代広場」に情報を積極的に載せることも必要であります。特に総代各位が不活動神社とはの実情を推り知ることが最も大切であります。人口減少に依る住民の少ない

〈東山梨支部〉

総代会 会長 堀 内 邦 満

山梨県神社庁東山梨支部定期総会が八月二十三日午後二時三十分、山梨市民会館に於いてご来賓として根津神社庁長、中田県神社総代会長のご臨席を賜り盛会に開催された。

次第により、神宮遙拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和がなされ、日原支部長・堀内総代会長（私）の挨拶、ご来賓よりご祝辞を頂き議事に入り、平成三十九年度事業報告・平成三十九年度会計報告・監査報告後採決、令和元年度事業計画（案）・令和元年度予算（案）・役員改選の

お社、宮司兼務の神社の多くは総代各位の対応により、良い方向に推められると思われます。相方の活用によりこの大きな問題の解決が図られているものと私は信じます。情報は相互の交換あつてこそ成り立つものと考えられる。「総代広場」総代各位の作用を乞い願い、時を経て神社界の発展をご期待申し上げます。次第であります。

承認等が審議され何れも原案通り満場一致で承認される。引き続き、清興の講師として「神社本庁総合研究所・総合研究部長浅山雅司先生」により「御代替について」ご講演がなされ、私たちが知りえない内面的な事柄について詳しく話され誰もが真剣に聞き入っていた。

ご講演から御代替の諸儀式等について紹介すると：一、御大札と御大典：皇位につかれた新帝陛下が斎行される諸儀式の総称を御大札と言い、民間の奉祝行事を含めて御大典とも言う。

御大札の諸儀式（讓位・踐祚の式・即位式・大嘗祭・大饗）

二、踐祚の式：天皇が皇位につかれる事実を指す。

新帝が「三種の神器」「御璽」「国璽」をはじめとした皇室に由緒ある品々を継承される。

即位礼：新帝が皇位を継承されたことを、親しく皇祖天照大御神に報告され、高御座にのぼられて広く国内外に御位を宣言する儀式。（十月二十一日）

高御座：奈良時代以来、朝廷で重要な儀式が行われるときに用いられてきた天皇の御座。

（高御座は高さ六・五メートル、重さ八トンで黒漆塗りの檜の上に鳳凰が飾られた八角形の屋根が据えられている。現在、皇居松の間で修繕され組み立て作業が進んでいる。）

三、大嘗祭・大饗の儀：大嘗祭とは新帝が即位の後初めてお祭りをなされる新嘗祭のことで年毎の新嘗祭とは異なり、悠紀殿・主基殿を中心とする大嘗宮を建て、悠紀地方・主基地方で作られた米を御饗として行われる皇室・国家至高重儀。大饗の儀とは、大嘗祭の翌日行われる大嘗祭の直会のこと。

以上が概要であり参加者は御代替への関心を深めていた。

祭典を斎行して

例大祭やぶさめ祭りを奉仕して

小室浅間神社

宮司 渡邊 平一郎

去る九月十八日・十九日に、小室浅間神社例大祭「やぶさめ祭り」を奉仕した。祭儀は十八日の宵宮と十九日の例大祭の二日間ではありますが、八月のお盆が終わると撤下品として協賛者に頒布する藤の木の鞭の切り出しが始まります。総代が総出で二日間奉仕します。その後交代で鞭作りを行います。大変な作業です。祭儀は九月一日の初馬揃、九日の中馬揃、十五日の後馬揃を中祭式で斎行します。又やぶさめ祭りの特徴である「切火潔煙斎」が十三日から始まります。十三日の午後三時に潔斎始め祭が斎行されると神社の潔斎所に寝泊し、飲食も神社潔斎所以外では禁止になります。以前は女性と話をすることも禁止される程厳しいものでした。神職だけでなく「やぶさめ祭り」の馬に乗る奉仕者も全員潔斎しなければなりません。自営業者が少なくなり勤め人が多

くなっている現在祭りの存続を難しくしている一つの要因でもあります。一週間の決斎を経て十九日に祭儀終了後馬場に於いて馬を駆らせて馬の蹄の跡を見て占人が氏子町内の吉凶を占います。凡そ一ヶ月間、準備と祭儀にかかる大変な祭りです。大祭を覚えて安堵の気持ちと、来年の祭りの事を考えずにいられません。奉仕者が、年々老いて来ています。以前は農家では馬と共生する事は当然でありましたが、現在では、馬に触った事もない若者が殆どです。その為に神社で馬を飼育し氏子・参拝者に馴れてもらおうと努力しています。八百年以上続いている伝統行事を絶えること無く継続して行く重責を感じながら、明年の例大祭について考えています。



悠紀の里 抜穂祭奉仕

三社諏訪神社

宮司 遠藤 倫生

明治神宮より明治神宮百年祭に向けて「悠紀の途切れた歴史を復活させて欲しい」との依頼を受けて二年、石田地区の氏子並びに石田お俵連の方々の尽力により、「悠紀の斎田」が復興を遂げました。その斎田に水を張り、五月十九日には、花形豊元宮住吉神社宮司斎主のもとお田植え祭が恙なく斎行されました。

秋涼とは名ばかりの残暑厳しい九月七日、稲穂がこがね色に波打つ斎田の前にて、甲府市長樋口雄一様、山梨県神社庁庁長根津泰昇様、明治神宮欄宜水谷敦憲様、主基の国千葉県鴨川市主基斎田保存会酒井様、石田お俵連会長矢野和彦様、他石田地区有志の方々のご参列のもと、花形元宮住吉神社宮司と私と二人で「悠紀の里 抜穂祭」を奉仕致しました。斎主は私が務め、修祓、献饌、祝詞奏上、抜穂の儀と順調に進み、抜穂の稲刈りは、お俵連婦人部の方々に忌鎌にてご奉仕頂き、ずっしりと穂



先を垂らした稲を刈り取って頂きました。刈り取った稲は、一度ご神前にお供えし、斎主玉串拝礼、参列者玉串拝礼、撤饌し、祭典を謹んでご奉仕申し上げます。祭典後、稲は全て刈り取られ、お俵連の有志の方々のご奉仕により、穂先の束と稲束に分けられました。穂先の束は柳筥に納め、来る十一月十五日、明治神宮において斎行される「大嘗祭当日祭」にてご神前に献穀をし、以降令和二年明治神宮式年大祭までの恒例祭典の神饌（荒稲）としてお供えされます。残りの稲は、山梨銘醸（株）において白酒を造り奉納されます。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩
とに感謝し、明き清
きまことを以て祭祀
にいそしむこと

一、世のため人のために
奉仕し、神のみこと
もちとして世をつく
り固め成すこと

一、大御心をいただきて
むつび和らぎ、国の
隆昌と世界の共存共
栄とを祈ること

今後の予定

「神殿例祭、神職初会」

神殿例祭、神職初会を下記の日程で斎行いたします。

記

○神殿例祭

日 時 1月28日（火曜・仏滅）
午前10時30分

場 所 山梨県神社庁神殿

○神職初会

日 時 1月28日（火曜・仏滅）
神殿例祭終了後

場 所 山梨県神社庁神殿



「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たに
する新穀感謝祭は、本年度で六十四回を数えること
となりました。

本年も多くの皆様のご参列を得て、奉賛の喜び
を共に致したく存じます。

記

日 時 令和元年11月25日・26日

（一泊二日）

一、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での
御神楽の奉奏が執り行われ、参拝記念が撤
下されます。

二、宿泊ホテル、行程、参加費は支部によって異
なります。支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。

「神宮初まいり」

毎年恒例となりました神宮初まいりの旅を下記
の日程で行います。

多数の皆様にご参加いただきますようご案内申
上げます。

記

日 時 令和2年2月25日(火)～27日(木)

（二泊三日）

参加費、旅程等は決定次第、ご案内致します。

春の受勲

神社関係者報告

旭日双光章

山梨県神社庁顧問

羽中田

進

山梨県神社庁顧問羽中田
進氏が令和元年春の叙勲に
旭日双光章を受章されまし
たので、御報告致します。